

かがやきプラス 小学生家庭版



テーマ **子どもの健やかな成長**

「子どもの発達と大人の関わり」

社会福祉法人白帆会理事長 木村 留美子
金沢大学名誉教授

子どもの発達は連続的であり、その時々でその時の発達課題を乗り越えて行くことができるように、周囲の大人は支援する必要があります。本稿ではこのような子どもの連続的な発達の中で習慣化すべきことや、大人が果たすべき役割について考えてみたいと思います。そして、どのような関わりが子どもに生きる力や自信を持たせ、自分の安全や健康、人のことを思いやる力を育てることになるのか考えてみたいと思います。

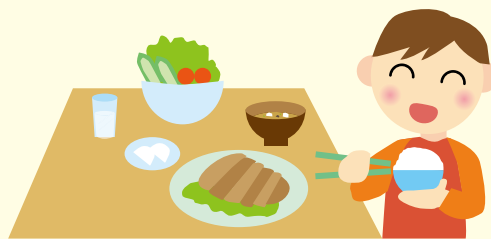
発達の道筋はどの子も同じ

子どもの発達の道筋はどの子も同じです。ですから、子育てでは誰もが同じ課題に直面し、悩みます。つまり、過去の事例に学び、共に考え支え合うことが出来るということです。でも、最近ではその様子が少し変化してきています。保育園などで耳にすることですが、4ヶ月の赤ん坊が常に下痢をして体調不良の状態にあるため、その理由を尋ねると、母親が2回食を与えている。また、手がかからないからと2年間も3年間も母乳を与え続けている。これでは子どもは健康に育ちません。こんな基本的なことを学んでいない人が見受けられるようになりました。

子どもの社会化

人間の社会において子どもが経験するあらゆることは人間の社会で生きていく上での大切な社会化のプロセスです。例えば、食べることは、乳汁からはじまり、すり潰した流動食、半固形物、固形物といったように体の発達や食べたいといった子どもの意欲などを見ながら徐々に形、味、種類などを変化させていきます。内臓や器官は食べることで発達し、咀嚼し飲み込む力を育てることで口の周りの筋力を鍛え、会話する力を育てます。また、きちんと座り、姿勢を保ちながら両手を使って食べることで筋力の保持やマナーが身に着きます。このような基本的な学びや経験は子

どもが人間の社会で生きていくための大切な社会化です。こういったことが身に着いていなければ集団生活を送ることが難しくなります。遅寝遅起きや昼夜逆転の生活も同様です。生活習慣を確立させることはそれ程難しいことではありません。子どもの昼間の活動や学びの機会を保障するために大人の生活を少しだけ見直すことで可能になります。生活習慣を整えることは、子どもだけではなく大人にとっても良い結果をもたらします。



心と体のバランスの良い発達

子どもにとっての社会化や習慣化の効果は直ぐには分からないかもしれませんが、子どもの心と体の両方の発達を促しています。子どもの日常生活が穏やかで、大人との豊かな関わりがあれば、子どものホルモンバランスは良好に保たれて心と体のバランスの良い育ちが保障され、穏やかで人との関係を良好に形成する力が育まれます。つまり、子どもの中ではあらゆる出来事がないまぜになって発達を促していきます。これが環境に適応しつつ変化する大人の発達とは全く異なる、子どもの発達の特徴であり、獲得の過程です。特に、乳児期における特定の大人との日常的な関わりが十分に行われていれば信頼関係の基礎となる心の絆の「愛着」が形成され、それを基に子どもは他の人々との関係を発展させることができます。乳児期特有に見られる親しい人との繰り返し行われる単調な遊びも同様で、子ども自身に自分は何かが出来る存在であるといった自信を育てていきます。

脳の発達と大人の関わり

幼児期には最も重要な1歳半の発達の節目に直立二足歩行が確立し、自分の力で移動できる喜び、触れる楽しみ、見る喜びを体全体で表し、自分の興味あるものを指差しによって周囲の大人に伝え、何度も同じ答をもらってモノの名前を覚えていきます。さらに、「イヤ」などの自分の意思表示の機会を得て言葉の獲得の基礎を確立していきます。こういったことは全て応答してくれる大人が周囲にいて成立することです。子どもの脳は2歳までに大人の60%まで発達することが言われて久しくなりますが、発達イコール機能することとは違います。このような脳の発達には大人との対応関係が重要なことを理解していただきたいと思えます。

次の発達の節目は3、4歳の頃にあります。この時期の子どもはよく「自分で」といった言葉を使い、自分ですることを好み、空想の世界でもよく遊びます。これを見て、大人は「子どもがうそを言っている」と言いますが、子どもの話に合わせてやると楽しい話が聞けます。こういったこともこの時期の発達の特徴です。また、数年前より乳幼児の定期健診の受診率の低下が報じられていますが、健診は子どもが発達の節目を越えているかどうかを判断する大切な機会ですので是非受診して欲しいものです。



9歳の壁

学童期では「9歳の壁」と呼ばれる大きな発達の節目があります。この頃になると子どもの脳は大人の90%まで発達します。発達には個人差がありますが、9歳の壁を超えている子どもは抽象思考が出来るようになり、物事に対する見方が変化し、学習面でも個人差が大きく見られるようになり、学習に問題を抱えた子どもが顕在化します。また、学童期の子どもは、様々な活動を介し、自分の親以外の多くの大人と出会い、そのことを通して大人の対応には様々な形があることを知ります。そのような体験が、子どもに自分の親をひとりの人間として客観視する力を育てます。したがって、親はこの時期の子どもとの関係をそれまでのような力関係から、ひとりの人間対人間としての関わりへ

と変化させることが求められます。子どもはひとりの人格や考えを持った人間として扱われることで、それを将来の対人関係の中で活かしていくことが出来るようになります。

反抗期の意味

中学生の発達の節目は13歳、高校生では17歳です。13歳では目的意識を持った行動が取れるようになることが大切ですが、そのために自分で意思決定し、それに向かって自分の生活を修正し、整える力はまだ弱く、むしろ周囲に同調した集団行動の方が優位です。ですから、「自分で決めたことじゃないか!」と言った親の主張はあまり有効ではなく、この時期の発達の特徴や心の変化を理解した関わりの方が子どもの心に届きます。一方、数年前よりこの時期に見られるはずの「思春期の反抗期」を迎えない子どものことが話題になっています。これは、親の価値観をそのまま自分の価値観として取り入れたお友達親子のような間柄なため、特に母子関係でのストレスは少なくても良いように思われるかもしれませんが、反抗期は親の価値観から抜け出す努力の時として必要です。そして、反抗期を乗り越えた子どもは、17歳の節目を迎えた時に、それまでの親の価値観から抜け出し、自分作り（自我の再構築）に挑むようになります。また、この時期は進路に関わる学習活動と将来に向けた身体作りが大切な課題となります。

まとめ

このように子どもの発達を見てみると、どの発達の節目を乗り越えて行くにも、子どもを受け入れてくれる大人の存在が重要です。それぞれの発達の節目に大人からどのような支援を得られたかが重要です。「支える」ことの意味はお分かりのことと思いますが、子どもの言うなりになることではありません。

また、心からの喜びや悲しみ、苦しみ、痛みを体験しないゲーム浸りの生活では人間の心の奥深さや豊かさが理解できるはずもありません。



我が家のルール・社会のルール

褒めてもらったという満足感を

(小6女子の母)

私の娘は、「自慢する」ことをかっこ悪いと考えているようです。たとえば、娘がクラスでする自己紹介の内容を考えている時、「お母さん、私の趣味って何かなあ」と娘。私は「上手にお菓子を作るから、やっぱりお菓子作りじゃなあい？」と。すると娘は「それって自慢してみたいだから他のことにする」となります。

そんな娘ですが、学校で何か一番だったり、先生やお友達に褒められたりすることがあると、「ねえねえ私すごいよね？」と得意げに自画自賛しながら話しかけてきます。他の人には自慢したくはないけれども、親には褒めて欲しいのではないかと感じます。こんな時、娘が満足するまで褒めるようにしています。そして、長女が帰宅したら、私から「ねえ聞いてすごんだよ」と言って、長女からも「すごいね」という言葉を引き出し、夫が帰宅したら、「すごんだよ、お父さん。話を聞いてあげて」と娘から報告させて、さらに褒めてもらいます。家族全員で褒めると娘の満足度が上がると思うからです。

また、小さい時から、叱る時には「なぜダメなのか」の理由を添えるようにして、子ども自身が叱られた理由がわかるようにしてきました。それは私自身、子どもの時に「お母さんは機嫌が悪くて怒っている」と思うことが多かったからです。また、褒めてもらった記憶も、あまりありません。子どもなりに「親に認めてもらいたい。褒めてもらいたい」と思っていた。そういう気持ちを娘の姿に重ねて、努力してきたように思います。

双方向のコミュニケーション

(小5女子の父)

小学校5年生の娘は社会のいろいろな出来事について親に聴いてきます。大人のドラマをみて感想を言い、お笑いタレントの演目に、評価もします。ファッションにもこだわりがあって、ブランドや値段ではなく自分が好きか嫌いかで決めます。娘の父としてできるのは、そのときどきの娘の言葉に耳を傾けることです。

私はカウンセラーをしていて、大人になってから心に不具合を感じている人たちの話を聴いています。理解して欲しいということを誰もが言います。子供のころに気持ちを親にうまく伝えられなかったり、理解してもらえなかったりしたことが大人になってからも続いているのです。

我が家のルールはコミュニケーションとることです。コミュニケーションは社会生活を円滑に保つための潤滑油ともなり、コミュニケーションをとることがお互いの理解につながります。子の成長にとって親の理解は大切なことです。親に理解してもらっているということは、子にとって安心となり心の安定につながっていきます。

親子でインターネットの世界を楽しみながら、インターネットの中に潜む危険を伝えていきます。娘と色々な所にてかけ、その場所でのルールを伝えます。

実践や生活の中で子が親に感じたことを伝えられ、親が子に感じたことを伝えることができる双方向のコミュニケーションとることが親から子に社会で生きていくために必要なルールを伝える大切な手段となります。

おやつにももらったチョコレート。
かぞくにわけたらちいさくなった。
でも、みんなのしあわせおおきくなった。

石川県羽咋市
小学校1年 仙崎 志歩

叱るより 褒めたいんだよ 本当は
のど元までなら 準備万端

愛知県江南市
一般 早川 学

お母さんが教えてくれた
「かがみは先にわらわない」
いつも心においてるよ。

宮崎県延岡市
小学校3年 甲斐 瑠々花

できるだけ言わない3D
『でも』『だって』『どうせ』
どんどん言おう3D
『どうもありがとう』
『だいじょうぶ?』
『だいすき!!』

山口県美祢市
小学校5年 寺脇 美空

斜め 45 度の関係を

文部科学省ブックレット『子どもたちの未来をはぐくむ家庭教育』には、「子どもの頃、家事や手伝いをした経験の多い人ほど、職業意識が高い傾向にある」「家の人と学校での出来事について話している児童生徒ほど学力調査の平均正答率が高い傾向にある」というデータが出ています。

親子ともに大忙しの日常生活において、さまざまな体験の機会を生み、時間を作ることは結構大変です。そこでお勧めしたいのが、お子さんと一緒にキッチンに並んで食事の用意をすることや移動の際の車の中で会話をすることです。心理学の実験から「相手との友好的な関係を結びたければ、圧迫感を感じさせないよう真正面に座らない」「横に座ったり斜め 45 度の位置に座ったりすると会話量が増える」という結果が出ています。子育てを終えたお父さんやお母さんの経験談として語られることが多くあったエピソードの一つです。 (生涯学習課指導員)

◇家庭教育学級へのお誘い◇

お父さんの出番です！親子でカレー作り



家庭教育学級は、PTA（育友会）が中心となり、学校と協力して開設した家庭教育を学び合う場です。会員相互の親睦を深めながら子育てについて話し合ったり、いろいろな講話を聞いたりすることで、子育ての悩みを解消し、子育ての力を高めていくのが大きな目的です。皆さんも積極的に参加してみましよう。

家庭教育講演会のお知らせ

- 日 時 平成 29 年 2 月 4 日 (土)
13:30 ~ 15:30 (予定)
- 会 場 金沢歌劇座
- 講 師 社会福祉法人白帆会理事長
金沢大学名誉教授
木村留美子 氏

※開催時刻・申込み等の詳細は

- 金沢市広報新聞紙上掲載 (1 月)
- いいね金沢ホームページに記載 (1 月)

※問い合わせ先

金沢市教育委員会生涯学習課
家庭教育振興室

Tel. 076-220-2441
Fax. 076-220-2488

家庭教育の相談窓口の紹介

金沢市教育プラザ富樫 金沢市子ども 総合相談センター	① 電話相談	お子さんや子育てに関する悩みごとについて、電話でお応えいたします。 (平日 9:00 ~ 21:00 土・日・祝日 9:00 ~ 17:00)	Tel.076-243-0874
	② こども専用 相談ダイヤル	子ども専用の通話料無料の相談電話です。 (平日 9:00 ~ 21:00 土・日・祝日 9:00 ~ 17:00)	Tel.0120-92-8349
	③ いじめ電話相談	いじめに関する悩みごとについて、電話でお応えします。 (平日 9:00 ~ 21:00 土・日・祝日 9:00 ~ 17:00)	Tel.076-243-1019
	④ 虐待通報	子どもの虐待に関する通報を 24 時間体制でお受けします。	Tel.076-243-8348
	⑤ 児童相談所	18 歳までが対象です。相談内容は養護、保健、心身障害、非行、育成、虐待等です。(平日 9:00 ~ 17:45)	Tel.076-243-4158
金沢市家庭教育サポーター	身近な地域の家庭教育サポーター（主に民生委員・児童委員）が相談に応じます。 (連絡先 金沢市教育委員会生涯学習課 平日 9:00 ~ 17:45)		Tel.076-220-2441

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」は、家庭教育について考えていただく目的で発行しました。

年 2 回の発行を予定しています。家庭教育にご活用ください。

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」へのご感想・ご意見がありましたら、下記までお知らせください。

〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1 金沢市教育委員会生涯学習課 Tel.076-220-2441 Fax.076-220-2488

E-mail syougaku@city.kanazawa.lg.jp